

地入口ノ見ユル方ハ腰板ヲ不打

〔茶式湖月抄四編下〕露地腰掛附堂腰掛 中クツリイ入

堂腰掛圖略 寶形作九尺 床四尺三寸 腰カケ一尺八寸 巾一尺六寸 屋根柿ブキ

堂中ニ半鐘ヲツル客ノソロヒシトキ打也

額腰掛巾六寸二分厚五分見分 柱桁マデ高上バマデ九尺 カウバイ七寸二三分

破風貫出一尺二三寸 破風下六尺三寸 柱九尺

〔槐記〕享保十一年正月廿三日進藤左馬頭へ御成廣瀬外記拙○ 待合上ノ圓座カサ子、上ノ煙草盆

新相樂ノ火入、青竹灰吹、下ノ煙草盆、一カンバリ、染付火入、青竹灰吹、

十五年正月七日御茶湯始拙ニ 御居間ツ、キノ御圍居 御待合御書院ノ次ノ間常信ガ彩色

ノ屏風一雙ヒキマハシ内ニ薩摩燒ノ火鉢バカリ略○下

〔茶道早合點上〕莊雪隱かざりせつゐん 當代は小便所とも號

白きわり石をまくなり大便所にはあらず大便所は下腹雪隠とて中廬路の外にあり、住人は下腹雪隠ばかりなり石雪隠なりとも砂を置ときは下腹雪隠とえるべし下腹雪隠は壺をふせをくなり尤踏板なり砂雪隠へ大便する法先觸杖にて砂をかきのけ紙を多くまき大便して上へ又紙をきせ觸杖にて砂をかきまき多くかけをくまかしながら先大便はせぬことなり莊雪隱の内は、き觸杖塵穴あり穴の中に箸あり小便たごにてはあらず爐のときは戸を立置風爐の時は戸を明置又明ざる流義もあり

〔茶道筌蹄一〕庭之部

雪隠 露地口より外にあるが下腹大便を通す露地口の内にあるがクレ板雪隠クレ板八枚、モ

内四尺、或は外四尺、是よりセまきは庭の勝手による也、クレ板八枚の内二板切ヌキ、左右六枚也、内露地は砂雪隠なり、

雪隠